

桜蔭俳話会 一月句会 (第三五二回)

平成二十九年一月二十九日 (日)

会場・旭区民文化センター (サンハート)

四点①猫の尾のはてなの仕草日脚伸ぶ	幸
四点①まだ何も書かれぬ句帳寒に入る	友子
四点 フランスの鴨肉食べて初句会	直子
四点 待春の指躍らせてジャズピアノ	守
3点①波郷碑へつづく石段日脚伸ぶ	朋子
2点①年新た菜箸白く光りをり	ヤエ子
2点①健さんの映画ひねもす雪積もる	かおる
2点①大都会流せぬ夢の宝船	眞壽
2点 鳩サブレー尾よりかぢりて女正月	幸
2点 覗色すつと入るや冬の月	かおる
2点 ずわい蟹伊万里の皿を小さくす	幸
1点①冬木立枯れている色我を見ゆ	直子
1点①寒梅の花のさかりを遠巻きに	朋子
1点 順繰りに四本の杵や越後餅	ヤエ子
1点 日脚伸ぶ鉢植え置かれサンルーム	明美
1点 初孫に治癒力増すや春近し	かおる
1点 初場所の土俵たひらに掃き箒	明美
1点 三日果つ今年の計の決められず	友子
1点 大寒やスーパーはたとセルフレジ	明美
1点 外套をざつくり羽織る白衣かな	朋子
1点 初詣汽笛聞こえる丘の道	眞壽
1点 咳込みて母を求むる手の叫び	守
1点 初めてのホールインワン日脚伸ぶ	かおる
1点 日脚伸ぶ道路工事の転圧機	守
1点 調律のピアノの音や日脚伸ぶ	守
1点 抱く子のまた重くなる初詣	友子
1点 山裾の馬頭観音霜柱	幸
※ 重ね着て軽くあたたか母のもの	朋子
大家族習ひながらの初詣	かおる
はひはひの子へも等しくお年玉	友子
サラリーマン今年もやるぞ初仕事	眞壽
日脚伸ぶしづかに沈む地殻かな	守
再会の三人の踏む落葉かな	朋子
嫁が君柱に開ける穴一つ	眞壽
スカーフにきれいにくるむ木の葉髪	明美
日とどまる玻璃を動かぬ冬の蠅	ヤエ子

バイク旅無事の太字や賀状かな 幸
富士の山裾を広げて初日の出 直子
迎ふ園へ足取り軽し日脚伸ぶ ヤエ子
五能線吹雪かき分けラッセル車 明美
日脚伸ぶ仕事が終わる晴れやかに 直子
紙芝居へわくわく来る子日脚伸ぶ 友子
公園に子等の声あり日脚伸ぶ 眞壽
七草に今年も願ふ穏やかに 直子
大北風や湯気の色濃し露天の湯 ヤエ子
(不在投句 古野明美、稲葉幸)

【事務局からお知らせ】

○二月の句会は休みです。

○三月句会

三月二十六日（日）午後一時から、旭区民文化センター（サンハート）。兼題は、「春光」。

三月句会から、出句数は、五句以上、十句以内となります。

○四月句会

四月二十三日（日）午後一時から、旭区民文化センター（サンハート）。

○通信句会の選句を

第一二四回通信句会の投句一覧と選句用葉書を同封してあります。期日までにご返送ください。